



KANSAI
UNIVERSITY



Kansai University Center for Teaching & Learning

Newsletter



関西大学 教育開発支援センター
ニュースレター

June 2020

vol. 33



Frailty, thy name is "online educator."

教育推進部教授 山本 敏幸



2020年度の新学期は入学式もオリエンテーションもなく入構禁止から始まるという前代未聞のスタートとなった。学内で授業がおこなえない事態に急遽オンライン授業への転換が求められた。同じオンライン授業でも時間をかけて綿密に準備が出来るBYOD型の授業とは異なり、教員も受講生も現在の自分のITスキル・経験を総動員し、また、既存のパソコン、ネットワーク環境、スマートフォンを駆使しながら、新しい形の授業に臨むことになった。

1990年代半ばから世界中の大学でITを活用する授業の取り組みが始まった。学生を含む教育関係者が平等にITを使える環境を目標とするという「equityの課題」はITを活用する授業が始まってから30年近くも経つというのに一向に実現されていない。にもかかわらず、この課題を休講期間である新学期の第1、2週の短期間で克服しなければならなかった。教員の中には、固定電話もWi-Fiもなく、スマートフォンと古いパソコンだけでオンライン授業を実施しなければならない方もいた。また、カメラがついていないパソコンとスマートフォンの両方を操り、まさに二刀流で授業に臨む方もいた。誰もが必死になって手元にある器材を組み合わせ、オンライン授業の工夫をしたのである。教員や受講生にとって、この数週間はICTに関する

問題の解決に向けて真摯に取り組む時間となった。

このような非常事態にありながら歓迎すべきこともあった。オンライン授業の準備に奔走する教員が集まり、問題解決に向けて助け合うコミュニティが自然にできあがったことである。平常時には同じキャンパスにいても所属部署が違えば立ち止まって話をする事がなかった教員達が結ばれていったのだ。きっかけはともかく、すばらしい「草の根」的なFD活動のためのコミュニティの芽生えである。

非常時のオンライン授業は平常時の教室でおこなう授業形態をそのまま再現するものではない。対面授業でしか出来ないこと、オンライン授業だからこそ出来ること、そういったことを見定めて、よりよい授業の姿を模索していく必要があるだろう。ケンブリッジ大学は来年度までの授業はすべてオンラインで実施すると表明している。平常時の授業形態が終焉を告げ、オンライン授業が新しい日常になる可能性は否定できない。

最後に、Eric Sheninger氏（Senior Fellow at International Center for Leadership in Education）に習い、非常時のオンライン授業化の十戒（避けた方がいい行為）を共有したい。

1. ICTに期待しすぎて張り切り過ぎて、受講生に今まで以上に課題を課す。
2. 細やかな添削、フィードバックをする気もないのに頻繁にレポート課題を課す。
3. 平常時の講義資料を電子化して、何の説明もなくただLMSに載せる。
4. 受講生も非常時にオンラインで授業を受けていることを忘れてしまい、平常時と同じ方法で成績評価をする。
5. 平常時と全く同じ教材資料、ワークシート等をそのまま使う。
6. 何が何でも、平常時のカリキュラム・シラバスに沿って授業展開をする。
7. 平常時のカリキュラム・教授法を学部内の教員・同僚に強要する。
8. アカデミック・インテグリティを逸脱する。
9. アカデミックな学びに相応しくないビデオ等のリッチメディア・コンテンツをオンライン教材にする。
10. 平常時と全く同じカリキュラム・授業内容をとにかく網羅しようとする。

このような十戒が、非常時において、授業担当の教員にとっても、受講生にとっても豊かな学びの共有に繋がるのではないだろうか。

活動報告

FDオンライン相談会を開催しました

3月末になり春学期の授業はオンラインで実施される可能性が高まってきたため、教育推進部教育開発支援センターの教員を中心にFD相談会開催に向けて企画を立て始めました。

1週目(4月1日(水)～4日(土))は「教員の不安を取り除く」をテーマに個別相談会とセミナー(講師:山本敏幸(関西大学教育推進部教授)、岩崎千晶(関西大学教育推進部准教授)、多田泰紘(関西大学教育推進部特別任用助教))を対面で実施しました(English available)。セミナーでは、「オンライン授業設計の基礎基本」「関大のシステムを使ったオンライン授業の設計」「関大のシステムの操作方法」の3つをテーマに講演をしました。セミナーは録画、Webページで配信し、個別相談に関してセミナーを視聴した人が参加できるようにしました。

2週目(4月6日(月)～4月11日(土))は「教員の不安を把握し、解決策を準備する」をテーマに、Zoomを使った授業体験会の準備、教員対象のアンケート調査を実施しました。並行して、相談会にお

いて教員から寄せられた質問事項で必要性が高いもの(録画配信の仕方、著作権、資料のダウンロードを禁じる方法、Zoom等のシステムの基本的な利用方法等)に関してQ&A集や操作マニュアルを作成し、教員が授業で活用できるように配慮しました。

3週目(4月13日(月)～4月18日(土))は「教員が考える授業を実現するための支援」を実施しました。「オンライン授業に関するセミナー(講師:山本敏幸)」(40分)を実施し、個別の相談・質疑応答の場を設けました(講師:岩崎千晶・多田泰紘)。13日(月)は260名程度の参加、15日(水)(English Session)は55名程度の参加、17日(金)は70名程度の参加がありました。

4週目(4月20日(月)～25日(土))は「レベルに分けた課題解決と学生へのサポートの開始」をテーマに初めてLMSを活用する教員向けの初級・初心者コース、LMSを利用した授業をした経験がある教員を対象にし

た中級コースに分けてFD相談会を週4回実施しました。参加者は各回約30～50名程度でした。6月現在も週に1度のペースでZoomを活用したFD相談会、メールでの相談対応を継続し、教員が抱える課題に迅速に対応できるような体制を整備しています。6月12日(金)時点において、計17回の相談会を開催しており、延べ750名の方々が参加しております。詳細は教育開発支援センターのWebページをご覧ください。

(教育推進部准教授 岩崎千晶)



FDオンライン相談会の様子

入学時調査を実施しました

教学IRプロジェクトでは、入学時調査を4月に実施しました。今年度は、教職員や学生に対する調査結果のフィードバックを早め、教育改善に積極的に活用することを目的に、紙方式ではなく「Web方式」に変更して実施しました。

回答率の低下が懸念されましたが、回答期間中の積極的な協力依頼が奏功し、回答率92%という高い数値を達成できました。集計結果については、各学部教授会、または執行部会において報告する予定です。

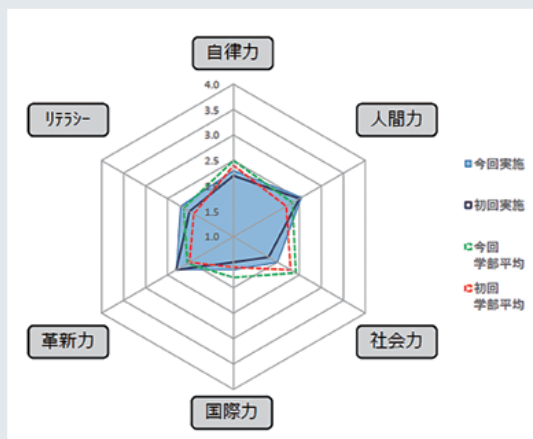
また、試行的に運用していたフィードバックシステムが本格運用となり、今年度は計7学部が導入しました。本システム

では、各種調査(入学時～卒業時)で一貫して評価している「5つの要素からなる考動力コンピテンシー」、「情報リテラシー」の計6項目をレーダーチャートで表示できます。学生自身の結果だけでなく、所属学部の平均値と比較できるほか、各能力を伸ばすために、どのような授業を履修すればよいか等のアドバイスを表示することができます。

内部質保証とは何のためか。本学ではそれを全面的に学生の学びの質保証・向上と定め、このシステムの普及を進めると

もに、大学全体の内部質保証システムを構築していきたいと考えています。

(教育開発支援室 土井健嗣)



レーダーチャートイメージ図

ライティングラボはインターネットを使った遠隔支援を行っています

ライティングラボは、オンラインでの対面型個別相談と、インターネットによる自習用動画や資料の公開を行っています。

オンラインでの対面型個別相談とは、Skypeによるビデオ通話を用いてレポートや卒業論文執筆、レジュメやスライド資料作成に関する相談に対応するものです。研修を受けた大学院生のチューターが学生の学習を1回40分で支援します。

この相談は原則、授業のある月曜日から金曜日の11時30分から17時に実施しています。遠隔授業期間の自習や授業課題のサポートにお使いいただけますので、ぜひ学生にご紹介ください。

詳しくはライティングラボ Web ページ www.kansai-u.ac.jp/ctl/labo/ をご参照ください。

また、ライティングラボでは、

①レポートや卒業論文執筆に関するワンポイント講座の動画と資料、

②文章作成のスキルを「表記表現」や「引用方法」などのテーマ別に説明した5分前後の動画と資料、確認問題を収録したeラーニング教材をインターネット上で公開しています。

(教育推進部特別任用助教 多田泰紘)

①ワンポイント講座の動画と資料は、ライティングラボのサイト
<http://www.kansai-u.ac.jp/ctl/labo/onepoint-advice/index.html>
から視聴・閲覧できます。



②eラーニング教材は関大LMS
<https://kulms.tl.kansai-u.ac.jp/>
で公開しています([コースの追加]から、「ライティング力を高めて、いいレポート・卒論を書こう!」の[メンバーになる]を選択)。こちらも併せてご活用ください。



オンラインでの個別相談の様子



オンラインチュータリング イメージ図

教育開発支援センターからのお知らせ

遠隔授業に関するお役立ちサイトを公開しています

本学では、すでに公表しているとおり、日本国内における新型コロナウイルス感染症の影響拡大に鑑み、学内関係者の健康と安全の確保を優先して、2020年度春学期については、教室に集合した対面型の授業を行うことは困難であると判断し、原則としてインターネットを活用した遠隔授業を実施することとしました。

教育開発支援センターでは、遠隔授業におけるサポートツールや授業設計、

授業準備などに関するマニュアル・Q&A集を作成し、Webページにて随時

情報を発信しておりますのでぜひご覧ください。

【教員向けページ】
www.kansai-u.ac.jp/ctl/news/post_42.html



【学生向けページ】
www.kansai-u.ac.jp/ctl/news/post_43.html



教育開発支援センターが移転しました

4月より、教育開発支援センター（CTL）は、千里山キャンパス第2学舎から尚文館（3階）に移転しました。

今回の移転は、教員、研究員、授業を支援してくれる学部生・大学院生スタッフ、事務スタッフが一つの場所に集い、教職協働で大学教育を推進し、今後CTLがより一層発展をしていくために行われました。第2学舎のCTLがあった場所は、CTLが主催するFD、ランチョンセミナー、ワンポイント講座等を実施するとともに、アクティブ・ラーニングを実践する教室として活用していくこととします。その新名称は「CTLアクティブラーニングルーム

＜KITENE＞」となりました。

（KITENE=Kandai InTEractive NEtwork room）

教育内容や授業設計でご相談がある

場合は、是非、教育開発支援センターにお越しください。

（教育開発支援室 岡本芳知）



教育開発支援センターの入口



CTL アクティブラーニングルームの内景

「レポートの書き方ガイド」が新しくなりました

ライティングラボでは、レポートの体裁や構成の組み立て方から資料収集法、文章表現などのライティング・スキルをまとめた冊子「レポートの書き方ガイド」を作成、配付しています。昨年度までは3種類の冊子に分けていましたが、内容の整理と構成の改訂を行い、1つの冊子にまとめました。これにより、レポートを書く前から、書いている途中、書いた後の見直しまで、すべてこの1冊から情報を得ることができるようになりました。授

業内での使用や自宅でのレポート作成の参考書として非常に便利です。ぜひご利用ください。

「レポートの書き方ガイド」は、関大LMS Web ページ

<https://kulms.tl.kansai-u.ac.jp/>

で公開中の「ライティング力を高めて、いいレポート・卒論を書こう!」コース内に収録されています。自由にダウンロードしてお使いください。

（教育推進部特別任用助教 多田泰紘）



From CTL事務局

この春、私は新規事務職員として入職しました。授業支援グループ教育開発支援室に配属され、教学関係の仕事に携わることになった。昨今の新型コロナウイルスの影響を受け、鳴り止まない電話、数多く送られてくるメールなどの対

応で先輩職員の方々は激務の毎日を過ごしていた。そんな中で私は手伝えることはないだろうかと考えながらも、何もできずに一週間が過ぎた。他部署に異動した先輩職員の方から仕事を引き継ぎ、メモを取る中で、ようやく自分が微力ながら手伝えることを見つけた。一人でできるようになったことを

伝えると、仕事を任された。先輩職員の方に緊張と不安を募らせながら、「できました。ご確認お願いいたします。」と報告した。「OK、できているよ。」と言われ、そっと肩の荷が下り、嬉しくなった。この調子で自分ができることを増やしていき、どんどん活躍できるように頑張りたい。

（瑛）



KANSAI
UNIVERSITY

関西大学 教育開発支援センター Kansai University Center for Teaching & Learning

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35 TEL: 06-6368-0230 FAX: 06-6368-1514

www.kansai-u.ac.jp/ctl/index.html

発行日/2020年6月26日 編集・発行/関西大学 教育開発支援センター